



秋保路をちょっと歩く。すると気付くはずです。秋保は奇岩、怪石の町であることを。

国指定名勝の磐神-いわがみ-「磐司」をはじめ、白の大岩壁「白岩」、石神の御神体「疱瘡神」、かつては秋保電鉄が運び、今も建築材として重宝されている「秋保石」、そして壮大な巖の連続「磊々峡」…。

…秋保は自然が創り出した石たちが織りなすミュージアム、「石満載」の里です。

それぞれの石、岩が刻んできた悠久の時を感じる旅、石とともに歩んだ地域文化を巡る旅に出かけてみませんか。

秋保 いってみっぺ

あきうの石 満載

いってみっぺ 秋保 あきうの石 満載

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

気の遠くなるような長い時間をかけ
二口街道沿いに繰り広げられてきた
石と岩の物語



2 いしわりぎくら きねんいわ
石割桜・祈念岩

磐司岩の東。二口林道沿いの姉妹滝北側の山中に、大岩を割りながら、絡まりつくように山桜が伸びています。石割桜と呼ばれています。春5月には深山の自然木らしい可憐な花が見られます。

また、石割桜から5分ほど急登した所には、祈念岩(男岩)が鎮座しており、この岩にまつわる悲しい伝説も残っています。



3 石ヶ森山

標高369mの何気ない山。実はその昔、やすらり公という武将の館があったとの伝承とともに、採石場としての歴史もあります。仙台藩祖伊達政宗公が眠る瑞鳳殿の石棺は、石ヶ森の石が用いられたと伝わっています。



4 しらいわ
白岩

二口街道を西に、馬場地区に入つてすぐの左手奥、白の大岩壁、白岩が見えてきます。

名取川河岸に連なる山並みに、一つのアクセントとなっている景勝地は、かつてみやぎ新観光名所100選にも選ばれたほどで、四季折々に姿を変えて、見る人を楽しませてくれます。



あきうの石 満載 案内之図



5 こたきざわばし
小滝沢橋(めがね橋)

芋生川が駅地区で小滝沢となり名取川に合流しますが、この沢に架かるのが小滝沢橋です。

東北地方ではとても珍しいアーチ型の石橋で、昭和14年に架けられました。長さ20.8m、幅4.5mで、建築時、馬場小学校の校庭に実寸の設計図を描き、仮組みしたという逸話が残っています。仙台市の有形文化財です。



6 ほうそうがみ
疱瘡神

「石神」という地名の由来となった見事な巨石で、山の尾根上に、高さ4mを超える威厳に満ち溢れた姿で座っています。仙台北の「封内風土記」には、「本邑鎮守、而して大石を以って神体となす。」とあります。その名のとおり、ごつごつした岩肌を見ると、皮膚病平癒を願う多くの人々の崇拝を受けたことも何となく頷けます。秋保郷でも稀にみる自然崇拜物の一つです。立入りには氏子の佐藤さんの了解が必要です。



7 はやまなしや
羽山七社

今や春の桜の名所となった境野・羽山橋の下流側右岸に、柱状の大岩を望むことができます。近くの崖の上には石造りの祠が祀られ、大岩はその御神体です。

一帯に八幡社、稲荷社、熊野社など七社が鎮座すると云われていますが、現在では風化磨滅などで七社全てを確認することは難しくなっています。



8 らいらいきょう
磊々峽

名取川の中流部、秋保温泉の入口にあたる硯橋を中心に、東西約2kmにわたる峡谷が磊々峽です。

奇岩、怪石が重なり、急流あり深淵ありの清流に沿って、起伏に富んだ自然歩道が整備されています。

古くは「硯淵(のぞきぶち)」と云われていましたが、昭和6年、文学者の小宮豊隆氏により磊々峽と命名されました。以来、秋保温泉の景勝地として内外に紹介されています。



9 塩滝不動尊

秋保温泉の東側の入口にあたる洞窟堂(いわやどう)山の麓に、慈覚大師円仁由来の塩滝不動尊があります。

鳥居の奥は独特の岩肌を持つ岩窟になっており、本尊の他数体の石仏が祀られています。

かつて秋保電鉄が走っていた軌道敷の跡が目です。

